

住民活動①

市民が運営する こどもの図書館がオープン

高知市 高知こどもの図書館





昨年十二月に高知城に近い高知市永国寺町に「高知こどもの図書館」(館長・大原寿美さん)がオープンした。明るく広々とした一階は図書室で、子どもの目線に合わせた低めの書架に赤ちゃんの絵本から中学生・高校生向けの本が並び、二階には資料室と、おはなし会などが開ける多目的スペースがあり、延べ床面積は約六九〇平方メートルある。小さな来館者は思い思いにゴザに寝そべて本を読むこともできる、子どもたちにとって本のある楽しい居場所がひとつ増えた。ここは以前、県立消費生活センターのあった建物で、高知県が約四〇〇〇万円かけて改修し、NPO(特定非営利活動)法人高知こどもの図書館(理事長・浜垣昌子さん)が高知県から借り受け、運営している。

本は、地域で長年こども文庫を開いてきた一人の市民の蔵書一万五〇〇〇冊をベースに、数人の市民が五〇〇〇冊を寄贈し、それに図鑑や辞書類を補充して、蔵書は約二万冊ある。これがこの図書館の基本財産である。二万冊の中から約一万冊を選び開架している。

開館時間は午前十時から午後六時まで。火曜日と木曜日が休館日で、近くの県立図書館や市立図書館の休館日と重ならないようにした。本は一人五冊まで二週間借りられる。開設してから五カ月足らずだが、貸し出し登録者は一八〇



○人を超えた。うち六〇%が子どもで、大人が三五%を占め、中学生・高校生は五%と少ない。一日平均約百十人の来館者があり、一五〇冊からの貸し出しがある。土曜、日曜日はお父さんとの親子での来館が目立ち、多い日には二〇〇人が来館、四五〇冊を貸し出す日もある。

日常業務は主に大原さんら女性スタッフ三人で切り盛りし、理事も交代で貸し出し作業に当たるなど職員をサポートしている。ほかに中学生から高齢者までの市民ボランティアの登録者が約一〇〇人いて、時間を見つけては本の装備や整理、パソコンの入力作業を手伝っている。

家賃は無料で、光熱、水道費は県が負担してくれるが、人件費、資料購入費など図書館の運営に約一三〇〇万円かかる。うち半分を個人会員や団体会員による会費収入で賄い、あとは助成金や寄付金に頼っている。会員は沖縄から北海道まで約六五〇人いる。こうして高知こどもの図書館は多くの市民に支えられながら運営している。

そもその発端は、五年前に県立図書館の移転計画が表面化したことから始まる。移転の後の図書館をそのまま「こども図書館」にしてほしいと「高知こどもの図書館をつくる会」が市民によって設立され、県と話し合ってきた。しかし県を取り巻く経済事情が変わり、県立図書



館の移転計画は先送りになり、施設転用案は断念せざるをえなかったが、民間で責任をもって運営していただけるのならと、代わりの施設の候補として県から三カ所提示があった中から、スペースと地理的条件にも恵まれているこの場所を選んだ。そして施設だけを県から提供を受け民間で運営していくことになった。そのためにNPO法人を立ち上げることにした。

折から平成十年三月にNPO法が成立し、四月に県に「こども課」ができ、二〇〇〇年が「子ども読書年」に定められたことも、こどもの図書館づくりに追い風に働いた。

昨年三月に「高知こどもの図書館」設立発起人会ができ、四月にNPO法人格の取得申請を行うと同時に、こどもの図書館準備室をオープンさせ、図書館開設に向けてボランティアによる本の整備や整理が始まった。

七月にNPO法人の認証を受け、九月から施設の改修工事が始まった。こども課の職員とは何度も話し合う中で信頼関係も生まれ、改修工事には市民の要望が取り入れられた。

市民と行政がお互いに自分のできることは何かと、話し合い、知恵を出し合ってつくり上げたのが高知こどもの図書館だという。

■連絡先 高知こどもの図書館

TEL 〇八八-八二〇-八二五〇